

社会司牧通信



202603

★印はカトリック関連

平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスクでは、教会が社会へ発信しているメッセージや社会の中で活動する団体の情報をお知らせします。社会へのチャレンジの第一歩として、積極的にご参加ください。

★教皇レオ十四世、2026年3月1日、「お告げの祈り」でのことば | カトリック中央協議会



中東とイランで起こっている暴力的な破壊、パキスタンとアフガニスタンとの紛争、暴力ではなく対話を持って平和を導くよう、そして私たちにも平和の為に祈り続けるよう呼びかけられています。また、洪水で被害を受けているブラジルのミナスジェライス州のためにも祈りましょう。



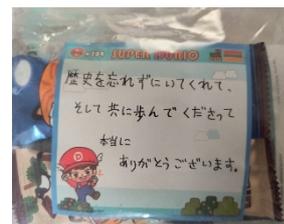
★抗議声明: 東京電力柏崎刈羽原子力発電所6号機再稼働について(日本カトリック正義と平和協議会) | カトリック中央協議会

★長生炭鉱水没事故の犠牲者の遺骨収集のための献金への感謝 - カトリック広島司教区



白浜司教様が呼びかけられた12月28日のミサ献金につきまして、2/7 905,511円を「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」へ送金していただきました。このたび、司教様より、ご協力くださった皆さまへご報告と感謝のお手紙が届けられました。ちょうど筆者も、2/7 84周年追悼集会にボランティアとして参加しており、その折に「刻む会」の方からも、あらためて深い謝意を伺いました。

皆さまのあたたかいご支援が、犠牲者の遺骨収集という大切な歩みを支えていることを実感いたしました。(右の写真は、韓国のご遺族からのメッセージです。)



●外国人との共生を実現する広島キリスト者連絡協議会(広島外キ連)から

①昨年ご協力いただきました署名「外国人定住基本法の制定を求める国会請願署名2025」ですが、3月2日に国会に提出されました。ご協力ありがとうございました。



②「ヘイトにNO!」全国キャンペーン 署名のお願い

5月末日〆切

オンライン署名・ヘイトにNO全国キャンペーン - 日本・Change.org
チラシと署名用紙を添付します。各小教区での取り組みよろしくお願ひします。

●緊急支援キャンペーン「ミャンマーの人々の希望をつなぎたい」

山口島根地区の「平和アピール1981」で講師を務めていただきました松浦由由佳子さん(認定NPO法人アルペ難民センター)からのお知らせです。2021年2月1日のミャンマーの軍事クーデターから5年経った今でも、各地で軍による激しい戦闘や弾圧が続いて多くの方が国内外で避難生活を続けています。頂いた寄付はアルペ難民センターのスタッフが責任を持って現地に届け、現地からの報告も届きます。

チラシを添付しますので、ご協力よろしくお願ひします。

(6月末日〆切)



『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』(10)「聖なる耳と命の木」

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)



「希望牧場の牛さんたちのあの目を忘れることができないんだよね。」マコは、高校生たちに自分の小学生の時の記憶を分かちあった。避難勧告が解除され、故郷に一時的に戻った。そのおりに、幼い時から両親が時々連れていってくれた南相馬の牧場を再び訪れた。皮膚にできものが出ている牛たちが放射能で汚染されてしまった草を食んでいる。車中では父がガイガーカウンターで放射能の数値を確認していた。ただ死を待つしかない牛たちの悲しそうな目…。

2011年、マコは家族と共に西方に移住した。その町にあるカトリック学校で中高時代を過ごした。今、その学校で、マコは自分のエコロジーの活動について生徒たちに分かちあっている。瀬川神父さんが特別授業を時々担当しているのだが、その関係で今回はマコが講話を依頼されたのだ。マコは、『植物と叡智の守り人』という北アメリカ先住民の植物学者が書いた本を紹介した。手に取った瞬間からこの本に恋をしてしまった。マコにとって特別な、エコロジカルな旅路へと誘ってくれた本なのだ。この著者は語る。今わたしたちは帰路に立っている、と。この先は道が二つに分かれている。「片方の道は草が生えたばかりで、やわらかい緑色に覆われている。裸足でも歩けるくらいだ。もう片方の道は真っ黒に焼けこげて硬く、裸足で歩けば燃えさして足が切れてしまう。」私たちは「緑の道」を選べるだろうか。生命が続いていくことのできる道を。その分かれ道は丘の頂上にある。その丘の下に広がる谷では、目覚めた人々が、集めたものをまとめた荷物を抱えて分岐点に向かっている。その荷物の中には、世界観を変容させるための貴重な種が入っている。その目覚めた人々の声が聞こえてくる。「来た道を戻り、道の脇に置き去られたものを拾い集めなさい。」

「私は多分、今この、置き去られたものを一つ一つ拾い集めて袋に入れていく旅路を歩いているのだと思うの。」生徒たちは、なんだか不思議な話を聞くような表情をしているが、真剣に聞いてくれている。マコは、心の袋の中に入れた一つの種について分かちあった。それは「聴く」ということ。人々の叫びを。大地の叫びを。あの牛さんたちの叫びを聴くことのできる“聖なる耳”を育ててゆくこと。「私もまだその旅路の始まりにいるに過ぎないけど、旅を続けながら拾い集めたものを、これからここに来るたびにみんなに分かちあっていくね。」



授業後、生徒たちとの対話の喜びの余韻を感じながら、マコは懐かしい校舎、一つ一つの大切な場所を、中高時代の記憶を振り返りながら巡っていった。シスターたちのお墓のところに来る。イエスの十字架がその奥に、森の木々の一部であるように峻り立っている。ヒルデガルド・フォン・ビンゲンというエコロジーの守護聖人と呼ばれている人にとって、十字架とは「命の木」トゥリー・オブ・ライフの意味を持っていたということをおぼろげに思い出す。十字架は、すべての被造物がつながりあっている、その壮大な交わりの中へと謙遜に参与していくこと。この森の中の十字架は、あの牛さんたちの叫びを聴き、連帯している命の木。牛さんたちの命を決して朽ちるだけではなく、新しい命へと変えていく希望の木。今、10年の歳月を経ながら、懐かしくも新しい眼差しでその十字架を見つめているマコがいた。(つづく)

★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口：広島教区人権擁護デスク★

受付時間 木曜日(祝日を除く) 9:00~16:00 電話番号 082-555-1127

メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL：082-221-6613 FAX：082-221-6019 E-Mail info@social-desk.net